



## 平成27年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年9月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ザッパラス  
 コード番号 3770 URL <http://www.zappallas.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 川嶋 真理  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理グループ ゼネラルマネジャー (氏名) 小林 真人

TEL 03-6434-1036

四半期報告書提出予定日 平成26年9月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年4月期第1四半期の連結業績(平成26年5月1日～平成26年7月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年4月期第1四半期	1,678	△10.8	59	△65.9	63	△58.4	51	△40.3
26年4月期第1四半期	1,882	△20.6	175	△70.9	152	△74.9	86	△75.2

(注)包括利益 27年4月期第1四半期 △3百万円 (△102.0%) 26年4月期第1四半期 158百万円 (△56.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年4月期第1四半期	4.05	—
26年4月期第1四半期	6.85	6.81

(注)1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、平成25年11月1日付で当社普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年4月期第1四半期	9,590	8,106	84.0	632.57
26年4月期	10,056	8,390	82.6	652.73

(参考)自己資本 27年4月期第1四半期 8,054百万円 26年4月期 8,310百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年4月期	—	0.00	—	22.00	22.00
27年4月期	—	—	—	—	—
27年4月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年4月期の期末配当は未定です。

### 3. 平成27年4月期の連結業績予想(平成26年5月1日～平成27年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	△8.0	0	—	0	—	△13	—	△1.04

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年4月期1Q	13,651,000 株	26年4月期	13,651,000 株
② 期末自己株式数	27年4月期1Q	918,500 株	26年4月期	918,500 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年4月期1Q	12,732,500 株	26年4月期1Q	12,612,500 株

(注)発行済株式数については、平成25年11月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつあります。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、国内スマートフォン(\*1)契約率が平成26年3月末の47.0%から平成31年3月末には70.9%に達することが予想されており、スマートフォンの普及が続いております。(\*2)

このように当社グループでは、増加するスマートフォンユーザーを取り込むべく新たな集客の仕組みづくりに努めるほか、当社の主要顧客層(20代~40代の女性)のニーズに合致した商品ラインナップの拡充に努めてまいりました。

収益の柱であるコンテンツ事業では、スマートフォンユーザーを着実に獲得しスマートフォン売上が増加しましたが、フィーチャーフォン(\*3)ユーザーの減少分を補うまでには至らず、売上高が減少しております。また、コスト管理の徹底により販売費及び一般管理費を削減しましたが、利益率の高いコンテンツ事業の売上高の減少により営業利益が減少する結果となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,678,280千円(前年同期比10.8%減)、営業利益59,901千円(前年同期比65.9%減)、経常利益63,436千円(前年同期比58.4%減)、当期純利益51,568千円(前年同期比40.3%減)となりました。

\*1: iPhoneやAndroidに代表されるパソコンと同等の機能を持ち合わせた多機能携帯端末のこと。

\*2: 株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測(2014年4月)」平成26年4月23日発表の報道資料より引用。

\*3: 通話機能を主体としその他にカメラやワンセグをはじめとする機能を搭載している従来型の携帯電話のこと。

セグメント別の概況は、以下のとおりであります。

#### ①コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、拡大するスマートフォンユーザーを取り込むべく新たな集客の仕組みづくりに努めるほか、新規コンテンツの投入や新サービスの企画開発などに継続して取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、フィーチャーフォン向けサービスの売上減少を補うまでには至りませんでした。スマートフォン向けサービスの拡充や会員数の増加等により、スマートフォン向けサービスの売上高は増加しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,146,048千円(前年同期比22.1%減)、セグメント利益は494,751千円(前年同期比16.0%減)となりました。

#### ②コマース関連事業

当社グループのコマース関連事業には、Eコマース事業(モバイル・PC)のほか、ナチュラルコスメの卸・小売事業を手掛ける株式会社ビーバイイーが含まれております。

Eコマース事業につきましては、「藤巻百貨店」においてfacebookを活用した販促活動を一時的に停止したことによる売上の減少や、既存モバイルコマースサイトの売上の減少などがありましたが、女性向けアパレルの定期購入型オンラインショップ「STYLEST」の会員数増や、ベビー&キッズ用品のオンラインセレクトショップ「cuna select」において人気の定番商品が誕生するなど着実に成長しております。

また株式会社ビーバイイーは、当第1四半期連結累計期間においては新商品の発売がなかったため、売上高は低調に推移したものの、今後発売を予定している新商品の企画開発に取り組んでいるところであります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は227,147千円(前年同期比9.5%減)、セグメント損失は168,729千円(前年同期は92,818千円のセグメント損失)となりました。

#### ③海外事業

海外事業につきましては、米国に拠点を置く当社100%子会社であるZappallas, Inc. (U.S.)が占いコンテンツビジネスを展開しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、着実に利益を生み出せる体制を構築すべく当社の効率的なコンテンツ運営ノウハウの投入や、コスト構造の見直しを実施したため一時的にコストが増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は116,513千円(前年同期比6.0%増)、セグメント損失は45,050千円(前年同期は31,651千円のセグメント損失)となりました。

④その他の事業

その他の事業につきましては、モバイルサイト開発受託や電話占い(\*4)の運営、広告販売や有料コンテンツへの送客を目的とした無料サイトの運営のほか、株式会社PINKにおいて旅行事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、株式会社PINKが加わったことにより売上高が増加しました。また、売上高の増加に加え広告宣伝費等コストの減少により、セグメント損失が減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は188,570千円（前年同期比274.0%増）、セグメント損失は42,039千円（前年同期は117,145千円のセグメント損失）となりました。

\*4:携帯電話や固定電話を介して直接占いや相談ができるサービスのこと。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して466,068千円減少し、9,590,780千円となりました。その主な要因は、売上高の減少による売掛金の減少額477,081千円によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して182,784千円減少し、1,484,028千円となりました。その主な要因は、返品調整引当金の増加額24,680千円があったものの、買掛金の減少額121,681千円、未払法人税等の減少額57,832千円、長期借入金の減少額45,988千円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して283,283千円減少し、8,106,751千円となりました。その主な要因は、為替換算調整勘定の減少額28,088千円及び配当金の支払等による利益剰余金の減少額228,546千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

フィーチャーフォンからスマートフォンへのユーザー移行が進み、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況下において、当社グループとしては新規顧客獲得コストの低減と顧客のLTV(\*5)を向上させることで、当社グループの持続的な成長をめざしてまいります。当期につきましては、目指す体制基盤を構築する年度と位置づけ、コスト管理の徹底を図りながら必要な投資を積極的に行っていく所存です。

平成27年4月期の業績予想につきましては、概ね当初予想どおり順調に推移しており、平成26年6月13日に公表した業績予想に変更はありません。

\*5:ライフタイムバリューの略。企業と顧客が継続的に取引をすることによって顧客がその企業にもたらす利益のこと。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,576,777	4,582,088
売掛金	1,559,859	1,082,778
有価証券	504,105	504,156
商品及び製品	93,217	179,320
仕掛品	1,038	—
原材料及び貯蔵品	18,244	19,000
短期貸付金	7,775	7,794
未収還付法人税等	—	17,029
その他	130,257	168,847
貸倒引当金	△12,680	△9,639
流動資産合計	6,878,594	6,551,375
固定資産		
有形固定資産	129,388	116,388
無形固定資産		
ソフトウェア	193,227	174,581
のれん	1,943,360	1,863,735
その他	48,400	38,078
無形固定資産合計	2,184,988	2,076,396
投資その他の資産		
投資有価証券	492,976	492,976
長期貸付金	37,330	35,374
破産更生債権等	2,131	2,131
その他	358,141	342,842
貸倒引当金	△26,704	△26,704
投資その他の資産合計	863,875	846,620
固定資産合計	3,178,253	3,039,404
資産合計	10,056,848	9,590,780
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	376,863	255,181
未払金	291,512	295,237
1年内返済予定の長期借入金	183,952	183,952
未払法人税等	132,340	74,507
ポイント引当金	15,013	15,795
返品調整引当金	17,049	41,730
その他	165,332	178,970
流動負債合計	1,182,063	1,045,374
固定負債		
長期借入金	484,174	438,186
その他	576	468
固定負債合計	484,750	438,654
負債合計	1,666,813	1,484,028

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年7月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,476,343	1,476,343
資本剰余金	1,401,718	1,401,718
利益剰余金	6,798,873	6,570,327
自己株式	△1,418,644	△1,418,644
株主資本合計	8,258,291	8,029,745
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△121	△121
為替換算調整勘定	52,688	24,600
その他の包括利益累計額合計	52,566	24,478
少数株主持分	79,175	52,528
純資産合計	8,390,034	8,106,751
負債純資産合計	10,056,848	9,590,780

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)
売上高	1,882,260	1,678,280
売上原価	587,049	626,148
売上総利益	1,295,210	1,052,131
返品調整引当金繰入額	—	41,730
返品調整引当金戻入額	—	17,049
差引売上総利益	1,295,210	1,027,450
販売費及び一般管理費	1,119,786	967,548
営業利益	175,423	59,901
営業外収益		
受取利息	283	226
為替差益	1,880	2,559
貸倒引当金戻入額	1,945	1,402
その他	808	69
営業外収益合計	4,918	4,256
営業外費用		
支払利息	1,756	716
貸倒引当金繰入額	26,270	—
その他	—	4
営業外費用合計	28,027	721
経常利益	152,314	63,436
特別利益		
固定資産売却益	—	32
特別利益合計	—	32
特別損失		
固定資産除売却損	76	76
特別損失合計	76	76
税金等調整前四半期純利益	152,238	63,393
法人税、住民税及び事業税	86,847	53,399
法人税等調整額	△15,686	△14,927
法人税等合計	71,161	38,472
少数株主損益調整前四半期純利益	81,076	24,920
少数株主損失(△)	△5,366	△26,647
四半期純利益	86,443	51,568



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	81,076	24,920
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	77,298	△28,088
その他の包括利益合計	77,298	△28,088
四半期包括利益	158,375	△3,168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	163,742	23,479
少数株主に係る四半期包括利益	△5,366	△26,647

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成25年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	コマース 関連事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,470,964	251,001	109,872	1,831,838	50,422	1,882,260	—	1,882,260
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,470,964	251,001	109,872	1,831,838	50,422	1,882,260	—	1,882,260
セグメント 利益又は セグメント 損失(△)	588,973	△92,818	△31,651	464,503	△117,145	347,358	(171,934)	175,423

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託業務及び広告事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	コマース 関連事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,146,048	227,147	116,513	1,489,709	188,570	1,678,280	—	1,678,280
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,146,048	227,147	116,513	1,489,709	188,570	1,678,280	—	1,678,280
セグメント利益又はセグメント損失(△)	494,751	△168,729	△45,050	280,970	△42,039	238,930	(179,028)	59,901

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託業務及び広告事業並びに旅行業等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。